

千葉県観光の発展過程¹⁾

観光統計の分析による検討

中 村 哲

1. はじめに

本稿は、千葉県の観光の発展においてどのような特質が見られたのかを明らかにすることを目的として行われた研究報告の第2弾である。中村(2005)では、千葉県の総合計画における観光振興策についての記述の分析を行い、県の観光に対する施策の内容の変化の特徴を明らかにした。ここでは、過去35年の観光入込統計の分析を県内の地域別に行い、その動向の変化の特徴を明らかにすることが目的となる。

本研究を実施する意義として、次の3点が指摘できる。第1に、千葉県の観光統計を長期にわたって分析した研究がこれまでに存在しないことである。既存の研究をみていくと、千葉県が毎年公表している『観光入込調査概要』のデータを各研究者の視点で独自に詳細な再分析を行ったものはいくつか存在する。山村(1991)では、東京都を除く関東6県と山梨・長野・静岡の計9県との観光客数の比較により、首都圏における千葉県の観光的地位を明らかにしている。丸井(2000・2001a)では九十九里、内房・外房における観光資源を概観した上で、千葉県の観光入込統計の分析を行い、観光地としての特徴を明らかにしている。また、小松・小川(1998)、小川(1999)では、1997年の東京湾アクアライン開通後の南房総地区の状況を検討している。しかし、これらのものは一時点の状況を見たものであり、長期にわたる変化は検討されていない。

第2に、千葉県の観光統計の調査方法が2004年より変更となったことで

ある²⁾。1960年以来、千葉県では独自の方法で観光客数の集計を行ってきたが、2004年より、日本観光協会が1996年に提唱した「全国観光統計基準」に従って調査・集計を実施することになり、過去の統計との連続性が失われてしまうこととなった。そこで、この時期に、旧来の方法で実施されてきた長年の統計を検討することは意味があると考えられる。

第3に、平成の大合併により、千葉県の自治体数ならびに各自治体の属する地域が大きく変化することである。1972年5月の長生郡本納町の茂原市への編入以来、2003年6月の東葛飾郡関宿町の野田市への編入まで、千葉県内では自治体の合併が見られなかった。ところが、2005年2月に鴨川市（安房郡天津小湊町が鴨川市と新設合併）、3月に柏市（東葛飾郡沼南町が柏市に編入）、7月に旭市（海上郡海上町・飯岡町、香取郡干潟町が旭市と新設合併）、12月にいすみ市（夷隅郡夷隅町・大原町・岬町が新設合併）、2006年1月に匝瑳市（八日市場市と匝瑳郡野栄町が新設合併）、3月に南房総市（安房郡富浦町・富山町・三芳村・白浜町・千倉町・丸山町・和田町が新設合併）、香取市（佐原市、香取郡栗源町・山田町・小見川町が新設合併）、山武郡横芝光町（山武郡横芝町と匝瑳郡光町が新設合併）、山武市（山武郡成東町・山武町・松尾町・蓮沼村が新設合併）、成田市（香取郡下総町・大栄町が成田市に編入）と合併自治体が続々と現れた。観光統計は調査時点での自治体を単位に把握されるので、合併を機会に統計の取り方が異なることになってしまう。また、郡を越えての合併も見られるので、各自治体が属する地域が変更となるケースも見られる。合併が本格化する2003年以前のデータを検討するには、現在がよいタイミングであるといえる³⁾。

そこで本研究では、以下の方法で、千葉県の観光のここ35年にわたる発展・変化の特徴を明らかにする。

- ① 『事業所・企業統計調査』により、県内の宿泊施設・ゴルフ場の事業所数・従業者数を把握し、地域における観光の位置づけを検討する。

- ② 1970年から2003年までの千葉県の『観光統計概要』『観光入込調査概要』のデータを収集し、各自治体別の延べ宿泊客数の変化を明らかにする。
- ③ 1970年から2003年までの千葉県の『観光統計概要』『観光入込調査概要』のデータを用いて、各地域別の観光入込客数の変化を分析する。あわせて、また、変化の特徴を明確に考察するため、各地域内における観光集客施設の開設・閉鎖の状況についても、市町村史等の資料を通じて把握を行う。

2. 事業所・企業統計調査の分析

(1) 宿泊施設数の推移

表1は、県内の旅館・ホテルの事業所数の推移を見たものである。2004

表1 旅館・ホテル事業所数の推移

地域	自治体名	1996年	2001年	2004年	指数
全 県		2,147	1,834	1,603	74.7
安房	館山市	174	137	120	69.0
千葉	千葉市	151	118	102	67.5
安房	鴨川市	124	106	92	74.2
安房	富山町	139	111	90	64.7
夷隅	勝浦市	102	88	80	78.4
千葉	市原市	100	79	71	71.0
安房	千倉町	76	65	60	78.9
安房	白浜町	69	63	56	81.2
君津	富津市	67	57	51	76.1
安房	天津小湊町	59	49	47	79.7
海匝	銚子市	65	55	45	69.2
夷隅	御宿町	50	50	45	90.0
東葛飾	船橋市	64	51	42	65.6
印旛	成田市	51	47	41	80.4
君津	木更津市	58	46	38	65.5

出所：『事業所・企業統計調査（各年版）』をもとに作成。

※ 指数は、1996年の軒数を100としたときの2004年の軒数を示したものである。

※ 天津小湊町は2005年2月に鴨川市と合併している。富山町、千倉町、白浜町は2006年3月に富浦町などと合併し、現在は南房総市となっている。

年の統計で旅館・ホテルの事業所数が上位の自治体を掲載している。1996年・2001年・2004年にわたって、全県では事業所数が大きく減少しており、このことは県内の多くの自治体に共通していることがわかる。2004年の統計を自治体別に見ていくと、もっとも旅館・ホテルの軒数が多いのは館山市であり、これに千葉市、鴨川市、富山町、勝浦市が続いている。

表2は、2004年における各自治体の全事業所のうち、旅館・ホテルの占める比率を示したものである。上から順に見ていくと、富山町（23.6%）、白浜町（16.2%）、御宿町（10.8%）、天津小湊町（9.1%）、富浦町（8.2%）、白子町（7.6%）、千倉町（7.4%）において、高い比率となっている。このことから、南房総の中核都市ではない自治体において、事業所として旅館・ホテルの比率が高いことがわかる。

表2 旅館・ホテル 事業所数比率の推移（2004年）

地域	自治体名	全事業所数	旅館・ホテル事業所数	
			実数	比率
全 県		186,876	1,603	0.9%
安房	富山町	382	90	23.6%
安房	白浜町	345	56	16.2%
夷隅	御宿町	418	45	10.8%
安房	天津小湊町	514	47	9.1%
安房	富浦町	244	20	8.2%
夷隅	白子町	472	36	7.6%
安房	千倉町	806	60	7.4%
夷隅	勝浦市	1,366	80	5.9%
安房	鴨川市	1,691	92	5.4%
山武	蓮沼村	162	7	4.3%
安房	和田町	336	14	4.2%
安房	館山市	3,232	120	3.7%
夷隅	一宮町	539	16	3.0%
長生	長柄町	240	7	2.9%
長生	長生村	382	11	2.9%

出所：『事業所・企業統計調査（各年版）』をもとに作成。

表3は、県内の旅館・ホテルの従業者数の推移をみたものである。これによると、県内全域では2001年には増加したが、2004年には大きく減少している。自治体別に見ていくと、浦安市、千葉市、成田市といった、大型の宿泊施設を有しておりなおかつ多くの宿泊客を受け入れているところで、多くの従業員が雇用されていることがわかる。このほか、船橋市・木更津市といった都市部に加え、安房地域の鴨川市、館山市、天津小湊町などで旅館・ホテルへの従業者が多い。

表3 旅館・ホテル 従業者数の推移

地域	自治体名	1996年	2001年	2004年	指数
全 県		27,896	30,161	23,962	85.9
東葛飾	浦安市	3,693	6,343	4,390	118.9
千葉	千葉市	4,525	6,209	2,753	60.8
印旛	成田市	2,840	2,610	2,569	90.5
東葛飾	船橋市	1,058	755	1,120	105.9
君津	木更津市	776	956	948	122.2
安房	鴨川市	1,146	1,073	941	82.1
安房	館山市	1,081	912	862	79.7
安房	天津小湊町	883	742	724	82.0
海匝	銚子市	850	740	694	81.6
千葉	市原市	902	730	605	67.1
夷隅	勝浦市	720	657	576	80.0
東葛飾	柏市	795	690	555	69.8
東葛飾	松戸市	622	546	507	81.5
安房	富山町	584	349	436	74.7
安房	白浜町	615	518	400	65.0

出所：『事業所・企業統計調査（各年版）』をもとに作成。

※ 指数は、1996年の軒数を100としたときの2004年の軒数を示したものである。

表4は、2004年における各自治体の全従業者数に占める、旅館・ホテルでの従業者の占める比率を示している。比率が10%を上回っているのは、天津小湊町（26.9%）、白浜町（24.8%）、富山町（23.9%）、富浦町（13.3%）、御宿町（12.2%）、白子町（11.7%）となっており、安房地域や太平洋岸の中核都市ではない自治体であることが共通している。南房総では、雇用の

受け皿として、旅館・ホテルに大きく依存していることがわかる。

表4 旅館・ホテル 従業者数比率 (2004年)

地域	自治体名	全従業者数	旅館・ホテル従業者数	
			実数	比率
全 県		1,833,926	23,962	1.3%
安房	天津小湊町	2,693	724	26.9%
安房	白浜町	1,613	400	24.8%
安房	富山町	1,828	436	23.9%
安房	富浦町	1,210	161	13.3%
夷隅	御宿町	1,909	232	12.2%
長生	白子町	3,405	397	11.7%
夷隅	勝浦市	7,244	576	8.0%
山武	蓮沼村	1,175	93	7.9%
安房	千倉町	3,947	291	7.4%
安房	鴨川市	13,359	941	7.0%
夷隅	一宮町	3,083	194	6.3%
東葛飾	浦安市	71,068	4,390	6.2%
安房	和田町	1,660	76	4.6%
長生	長生村	3,583	163	4.5%
安房	館山市	20,570	862	4.2%

出所：「事業所・企業統計調査（各年版）」をもとに作成。

(2) ゴルフ場の状況

表5は、千葉県内のゴルフ場の自治体別事業所数の推移をみたものであり、2004年の調査結果で上位12位までを掲載している。全県でみると、ゴルフ場の新設・廃業はあるものの、ここ10年間は170ヵ所前後で推移している。自治体別に見ていくと、最もゴルフ場が多いのは市原市（34ヵ所）であり、次いで、君津市（11ヵ所）、野田市および成田市（9ヵ所）となっている。比較的都市部からアクセスが便利な、千葉・印旛・君津・長生の各地域で多くなっている。

表6は、自治体別のゴルフ場従業者数の上位12の自治体をみたものである。全県では、ここ10年でゴルフ場従業者数が減少している傾向にある。自治体別に見ていくと、そもそも多数のゴルフ場がある、市原市、千葉市、

表5 ゴルフ場の事業所数の推移

地域	自治体名	1996年	2001年	2004年
全 県		168	176	170
千葉	市原市	36	36	34
君津	君津市	10	10	11
東葛飾	野田市	9	10	9
印旛	成田市	8	8	9
千葉	千葉市	9	9	8
長生	長南町	7	8	7
君津	袖ヶ浦市	5	7	6
夷隅	大多喜町	6	5	5
千葉	八千代市	3	3	4
香取	山田町	4	4	4
香取	多古町	3	4	4
長生	長柄町	3	3	4

出所：『事業所・企業統計調査（各年版）』をもとに作成。

表6 ゴルフ場の従業者数の推移

地域	自治体名	1996年	2001年	2004年	2004年 事業所数	1事業所あたり 従業員数
全 県		14,787	12,810	12,341	170	72.6
千葉	市原市	3,254	2,568	2,341	34	68.9
千葉	千葉市	944	940	910	8	113.8
君津	君津市	797	790	817	11	74.3
印旛	成田市	595	387	562	9	62.4
長生	長柄町	290	629	558	4	139.5
東葛飾	野田市	686	596	504	9	56.0
夷隅	大多喜町	700	548	462	5	92.4
長生	長南町	527	403	412	7	58.9
山武	東金市	454	468	408	2	204.0
印旛	印西市	518	301	353	2	176.5
長生	茂原市	291	386	343	3	114.3
君津	袖ヶ浦市	308	259	318	6	53.0

出所：『事業所・企業統計調査（各年版）』をもとに作成。

君津市、成田市、野田市、長南町で従業者が多い。このほか、長柄町、東金市、印西市、茂原市といった、ゴルフ場の事業所数は少ないながらも、1つの事業所が多くに従業者を雇用している自治体もみることができる。

表7は、各自治体の全従業者数に占めるゴルフ場従業者数の比率を示している。長生地域の長柄町（18.8%）、長南町（11.4%）、睦沢町（9.5%）、一宮町（3.7%）、夷隅地域の大多喜町（9.9%）、香取地域の山田町（9.2%）、神崎町（7.0%）、栗源町（5.0%）といった、各地域の比較的小規模な自治体においては、ゴルフ場が有力な就業先となっていることがわかる。

表7 ゴルフ場 従業者数比率（2004年）

地域	自治体名	全従業者数	ゴルフ場従業者数	
			実数	比率
全 県		1,833,926	12,341	0.7%
長生	長柄町	2,970	558	18.8%
長生	長南町	3,612	412	11.4%
夷隅	大多喜町	4,685	462	9.9%
長生	睦沢町	1,850	176	9.5%
香取	山田町	2,709	249	9.2%
香取	神崎町	1,952	136	7.0%
香取	栗源町	1,621	81	5.0%
印旛	印旛村	3,922	190	4.8%
長生	一宮町	3,083	115	3.7%
山武	松尾町	5,025	187	3.7%

出所：『事業所・企業統計調査（各年版）』をもとに作成。

3. 宿泊客数の推移分析

ここでは、千葉県の『観光統計概要』『観光入込調査概要』をもとに県内各自治体の宿泊客数の推移を検討する。従来の統計調査では、自治体別の宿泊客数が公表されていたのは1997年までなので、それまでを分析の対象範囲とする。加えて、新たな調査方法により実施された2005年のデータも見ておきたい。

表8は、千葉県内の自治体別宿泊客数の上位10位の自治体の推移を見た

ものである。1970年には、鴨川市、富山町、白浜町、天津小湊町、館山市、富浦町、鋸南町といった安房地域、勝浦市、大原市の夷隅地域が上位を占めている。1975年についても、白浜町をはじめとする安房地域、勝浦市ほか夷隅地域が中心となっている。1980年においても従来どおり安房地域・夷隅地域の自治体が多いほか、成田市（印旛地域）が第6位に登場している。これは1978年の成田空港の開港にともない、周辺に空港利用者向けの宿泊施設が開業したことが影響している。1985年には天津小湊町、成田市の宿泊客数が増加していることがわかる。一方で、県内最南端の白浜町、勝浦市では宿泊客数が減少している。1990年には、浦安市（東葛飾地域）が第1位となっている。1983年に開業した東京ディズニーランドの周辺にオフィシャルホテル5軒が出揃った結果とみられる。また、第8位は千葉市となっており、幕張新都心にコンベンション客向けのホテルが相次いで開業したことを反映した結果となった。一方で、白浜町の宿泊客の減少傾向に歯止めがかからなくなりつつある。1995年以降は浦安市、成田市、千葉市が、県内でも宿泊客数の多い自治体として定着している。一方で、天

表8 県内宿泊客数上位10自治体の推移（1970～1997年）

（単位：千人）

1970年		1975年		1980年		1985年		1990年		1995年		1997年	
自治体名	人数	自治体名	人数	自治体名	人数	自治体名	人数	自治体名	人数	自治体名	人数	自治体名	人数
鴨川市	737	白浜町	1,056	白浜町	1,264	天津小湊町	1,039	浦安市	1,813	浦安市	4,761	浦安市	4,659
勝浦市	655	勝浦市	1,026	勝浦市	1,036	成田市	962	天津小湊町	1,270	成田市	1,533	千葉市	2,257
富山町	601	天津小湊町	692	館山市	738	勝浦市	814	成田市	1,081	鴨川市	710	成田市	1,487
白浜町	588	富山町	690	鴨川市	719	白浜町	801	富津市	996	千葉市	670	鴨川市	601
天津小湊町	478	鴨川市	674	天津小湊町	708	富津市	783	鴨川市	918	館山市	629	館山市	575
館山市	452	館山市	542	成田市	653	館山市	719	勝浦市	847	天津小湊町	597	天津小湊町	556
富津町	430	富浦町	505	富津市	530	鴨川市	709	館山市	785	勝浦市	543	勝浦市	497
富浦町	421	御宿町	431	富山町	415	銚子市	587	千葉市	694	白子町	504	富津市	466
鋸南町	398	銚子市	386	御宿町	402	御宿町	398	白浜町	558	白浜町	477	白子町	440
大原町	365	富津市	348	銚子市	401	白子町	366	銚子市	438	富山町	468	富山町	427
						富山町	366					白浜町	427

出所：『千葉県観光統計概要（各年版）』、『観光入込調査概要（各年版）』をもとに作成。

※ 1970年の長生郡本納町は茂原市、安房郡江見町および長狭町は鴨川市、君津郡大佐和町および天羽町は富津町に含めて算出している。

津小湊町、勝浦市、鴨川市における宿泊客数の減少が続いている。

表9は、2005年における宿泊客総数の上位自治体のランキングである。あわせて、各自治体の観光入込客総数に占める宿泊客数の比率も示している。これによると、浦安市・成田市・千葉市に宿泊客が多いという1990年代半ば以降からの傾向が続いていることがわかる。安房地域・夷隅地域では、鴨川市、館山市、白浜町が上位に入っているものの、統計の取り方が変更になっているとはいえ、表8に示した30年前の数値と比較すると、宿泊客数は大きく減少してしまったことは否定できない。なお宿泊客数の比率をみると、安房地域ならびに勝浦市、白子町では20%を上回っているほか、空港関係の利用客が多い成田市においても20%近い比率となっている。

表9 県内宿泊客総数上位10自治体（2005年）

地域	自治体名	人数	宿泊客比率
東葛飾	浦安市	2,702,000	10.9%
印旛	成田市	2,411,362	19.4%
千葉	千葉市	2,057,294	11.4%
安房	鴨川市	1,073,721	22.3%
安房	館山市	479,976	31.0%
長生	白子町	391,000	38.6%
安房	白浜町	327,081	30.9%
君津	木更津市	313,107	4.7%
夷隅	勝浦市	311,542	20.4%
千葉	市原市	299,608	7.8%

出所：千葉県商工労働部観光課（2006）：『平成17年度観光入込調査概要』、千葉県 をもとに作成。

※ 2005年2月に天津小湊町は鴨川市と合併したため、2005年の鴨川市の数値は従来の鴨川市・天津小湊町を合算したものである。

表10は、上記表8に登場した自治体における宿泊客数の1970年以降の5年ごとの推移をまとめたものである。これを見ると、夷隅地域の勝浦市および御宿町、安房地域の白浜町、富浦町、富山町については、1980年までに宿泊客数のピークを迎えている。また、安房地域の鴨川市、天津小湊町、館山市、富津市は、1990年前後がピークとなっていることがわかる。しか

表10 県内主要自治体の宿泊客数の推移

(単位:千人)

地域	自治体名	1970年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	1997年	2005年
東葛飾	浦安市	—	—	—	38	1,813	4,761	4,659	2,702
千葉	千葉市	2	22	105	343	694	670	2,257	2,057
印旛	成田市	118	94	653	962	1,081	1,533	1,487	2,411
海匝	銚子市	361	386	401	587	438	443	345	275
長生	白子町	111	186	309	366	379	504	440	391
夷隅	勝浦市	655	1,026	1,036	814	847	543	497	312
	御宿町	328	431	402	398	395	309	267	172
安房	鴨川市	737	674	719	709	918	710	601	1,073
	天津小湊町	478	692	708	1,039	1,270	597	556	
	館山市	452	542	738	719	785	629	575	480
	白浜町	588	1,056	1,264	801	558	477	427	327
	富浦町	421	505	218	190	195	176	174	184
	富山町	601	690	415	366	271	468	427	209
	富津市	430	348	530	783	996	449	466	38

出所:『千葉県観光統計概要(各年版)』、『観光入込調査概要(各年版)』をもとに作成。

※ 調査方法が変更となったため、2005年と1997年以前の数値との単純比較はできない。

※ 1970年の長生郡本納町は茂原市、安房郡江見町および長狭町は鴨川市、君津郡大佐和町および天羽町は富津市に含めて算出している。また、2005年2月に天津小湊町は鴨川市と合併したため、2005年の鴨川市の数値は従来の鴨川市・天津小湊町の合算である。

し、これらの自治体は現在に至るまで、宿泊客数を大幅に減らしている傾向にある。一方、浦安市、千葉市、成田市では、1990年代以降に宿泊客数を増加させていることがうかがえる。

以上の分析をまとめると、次のことが言える。千葉県内の宿泊客数については、かつては、安房・夷隅の両地域を中心とする南房総が多数を占めていた。しかし、成田空港の開港、東京ディズニーランド、幕張メッセの開業等により、成田・浦安・千葉の各市にホテルが建設され、多くの宿泊客を受け入れるようになった。一方で、南房総地区への宿泊客数が大きくその数を減らしている。観光入込客数に対する宿泊客数の比率をみると、日帰り客が多くを占めている。ただし、県内の地域によって状況は異なっており、南房総ならびに成田市では県内の中でも宿泊客数の比率が高くなっている。

4. 各地域の発展過程と観光入込客数の状況

ここでは、千葉県の旧来の支庁の管轄区分に基づき、県内を10地域にわけて、観光の発展過程を概観する⁴⁾。あわせて『観光統計調査概要（各年版）』、『観光入込調査概要（各年版）』のデータもあわせて、各地域の観光客の動向の特徴についても明らかにしていくとともに、観光施設の整備状況との関連の検討も行う。

(1) 千葉地域

千葉地域には、千葉市、習志野市、八千代市、市原市が含まれる。

開発の過程を見ていくと、表11をみてもわかるように、そのほとんどが1970年代から1980年代にかけて千葉県または千葉市によって建設・整備された集客施設となっていることがわかる。千葉県によるものとしては、「千葉県立美術館」（1974年）、「千葉ポートタワー」（1986年）、「幕張メッセ」（1989年）があり、千葉市によるものとしては、「千葉市郷土館」（1967年）、「いなげの浜」（1976年）、「稲毛海浜公園」（1977年）、「千葉市動物公園」（1985年）、「千葉マリンスタジアム」（1991年）、「千葉市美術館」（1995年）などがある。一方、民間によるものとしては、幕張新都心への進出企業が地域に解放された文化施設として開設した「北澤美術館」「富士通ドームシアター」があったが、現在はそれぞれ閉鎖・休館となっている。

入込客数を目的別にみていくと時代とともに変化してきたことがわかる。「遊園地」客は1980年までは多く見られたが、東京ディズニーランドの開業に伴い、1982年に「谷津遊園」が閉鎖されたことの影響もあり、それ以降は大きく減っている。「潮干狩り」客は、1970年代後半以降はほとんど見られなくなっている。これは、東京湾岸が埋め立てられたことの影響である。「各種催物」については、「幕張メッセ」「千葉マリンスタジアム」の開業もあり、1990年以降に大きくその数を増やしている。「一般観光」は、1990年以降にその数が大きくなっているが、これは前述のとおり、

表11 観光関連の集客施設の開業状況などの動き(千葉地域)

年	名 称
1925	〔民〕 谷津遊園 (習志野市)
1967	〔自〕 千葉市郷土館 (別名・亥鼻城)
1971	〔県〕 千葉県こどもの国 (市原市)
1974	〔県〕 千葉県立美術館 (千葉市)
1976	〔自〕 いなげの浜 (千葉市)
1977	〔自〕 稲毛海浜公園 (千葉市)
1979	〔自〕 幕張の浜 (千葉市)
1982	〔民〕 谷津遊園《閉鎖》
1985	〔自〕 千葉市動物公園
1986	〔県〕 千葉ポートタワー (千葉市)
1987	〔県〕 幕張海浜公園 (千葉市)
1989	〔県〕 幕張メッセ (千葉市)
1991	〔民〕 スキーイングイン津田沼 (習志野市)
	〔自〕 千葉マリンスタジアム (千葉市)
1992	〔民〕 幕張北澤美術館 (千葉市)
	〔民〕 富士通ドームシアター (千葉市)
1993	谷津干潟がラムサール条約に登録
1994	千葉市が運輸省から国際会議観光都市に指定
1995	〔自〕 千葉市美術館
1996	〔自〕 千葉市花の美術館
1997	〔自〕 道の駅「やちよ」
2000	〔民〕 幕張北澤美術館《閉鎖》
2002	〔自〕 道の駅「あずの里いちほら」
	〔民〕 富士通ドームシアター《休館》
2006	〔県〕 千葉県こどもの国《休園》

※ 表のうち、〔民〕は民間、〔県〕は県、〔自〕は市町村、〔他〕はその他の団体が主体となって当該施設の整備を行ったことを示す。

1980年代の後半以降に、千葉市内に「千葉市動物公園」「千葉ポートタワー」などの集客施設が相次いで開業した影響である。「ゴルフ」については、1970年代以降に市原市を中心にゴルフ場の開発が進み、1980年代以降は安定して集客していることがわかる。

宿泊客については、千葉市内を中心に1990年代以降に急速に増えており、2005年には千葉市だけで延べ2,057,294人泊の滞在があった。これは、表13

表12 観光入込客数の推移（千葉地域）

（単位：千人）

	1970年		1980年		1990年		2000年		2003年	
入込数	合 計	4,947	合 計	6,698	合 計	19,307	合 計	22,833	合 計	22,341
	宿 泊	67	宿 泊	183	宿 泊	789	宿 泊	1,967	宿 泊	1,194
	日帰り	4,880	日帰り	6,515	日帰り	18,518	日帰り	20,866	日帰り	21,147
主な目的	遊園地	1,456	遊園地	2,005	各種催物	9,532	各種催物	10,547	各種催物	9,806
	潮干狩り	1,199	ゴルフ	1,129	一般観光その他	2,590	一般観光その他	3,211	一般観光その他	3,824
	各種催物	758	各種催物	1,108	ゴルフ	1,935	社寺参詣	2,456	社寺参詣	2,134
	社寺参詣	516	一般観光	652	社寺参詣	1,858	ゴルフ	1,823	ゴルフ	1,825
	ゴルフ	461	社寺参詣	555	遊園地	1,057	スポーツ観光他	1,728	スポーツ観光他	1,537

出所：『千葉県観光統計概要（各年版）』、『観光入込調査概要（各年版）』をもとに作成。

表13 千葉市内の主要なホテルの開業状況

年	宿泊施設の開業等	地区	客室数
1977	パールホテル千葉	千葉	70
1980	ホテルサンシティ千葉	千葉	102
1983	ホテルニューツカモト	千葉みなと	133
1986	三恵シティホテル千葉	千葉	105
1987	千葉ワシントンホテル	千葉	182
	バーディーホテル千葉	千葉	153
1989	ホテルサンガーデン千葉	千葉	208
1990	ホテルスプリングス幕張	幕張	259
1991	ホテルフランクス	幕張	215
	ホテル・ザ・マンハッタン	幕張	130
	ホテルグリーンタワー幕張	幕張	205
1993	ホテルニューオータニ幕張	幕張	418
	幕張プリンスホテル	幕張	1,001
	ホテルパシフィック千葉	千葉みなと	270
1997	東横イン千葉駅前	千葉	205
1999	ホテルポートプラザちば	千葉みなと	98
2000	スーパーホテル千葉駅前	千葉	149
	ホテルルートイン千葉	千葉	105
2001	京成ホテルミラマーレ	千葉	176
	オークラ千葉ホテル	千葉みなと	84

※ ホテルの客室数は、開業時のものではなく、現在公表されているものである。

※ 「ホテルパシフィック千葉」は1998年に閉鎖され、その後「東横イン千葉ポートアリーナ」としての営業を経て、2003年9月より、「ホテルグリーンタワー千葉」として営業している。

※ 「ホテルサンガーデン千葉」は、2005年10月に「三井ガーデンホテル千葉」と名称変更した。

※ 「幕張プリンスホテル」は、アパグループが西武鉄道から買収したことにとまない、2006年7月より「アパホテル&リゾート〈東京ベイ幕張〉」として営業している。

のとおり、1980年代後半には千葉市中心市街地にビジネスホテルが相次いで開業し、これに続いて1990年から1993年までに幕張新都心地区にシティホテルが6軒開業したことから、多くの宿泊客を受け入れる基盤が整ったことの結果とみることができる。

(2) 東葛飾地域

東葛飾地域には、船橋・市川・浦安・松戸・柏・我孫子・流山・野田・鎌ケ谷の各市が含まれる。

開発の過程を見ていくと、この地域は、全国的な知名度を誇る民間による観光対象の存在が大きいことがわかる。1955年に「船橋ヘルスセンター」が開業した。しかし、同所は温泉利用が禁止されたことや、東京湾岸の埋め立て開発、道路建設による敷地の分断により、1973年以降大きく来訪客数を減らし、1977年に閉鎖となった。1983年には浦安市の舞浜地区に「東京ディズニーランド」が開業し、その後園内のアトラクション等の増設を繰り返しながら集客数を伸ばしていった。その後の2000年には「イクスピアリ」、2001年には「東京ディズニーシー」が開業し、舞浜地区は「東京

表14 観光関連の集客施設の開業状況などの動き(東葛飾地域)

年	集客施設の開業等
1925	〔民〕 船橋ヘルスセンター
1976	〔民〕 清水公園(野田市)
1977	〔民〕 船橋ヘルスセンター《閉鎖》
1982	〔自〕 船橋市海浜公園
1983	〔民〕 東京ディズニーランド(浦安市)
1987	〔自〕 市川市動植物園
	〔自〕 船橋市アンデルセン公園
1993	〔民〕 ららぽーとスキードーム“ザウス”(船橋市)
2000	〔民〕 イクスピアリ(浦安市)
2001	〔民〕 東京ディズニーシー(浦安市)
2002	〔民〕 ららぽーとスキードーム“ザウス”《閉鎖》

※ 表のうち、〔民〕は民間、〔県〕は県、〔自〕は市町村、〔他〕はその他の団体が主体となって当該施設の整備を行ったことを示す。

ディズニーリゾート」として一大リゾートエリアを形成するに至った。

入込客数の推移を見ていくと、一見すると年々増加し、2003年では4,733万人と県内でも有数の集客を誇るエリアに成長したようである。しかし、来訪客の主な目的を詳細に見ていくと、その間にさまざまな変化があったことがわかる。

まず、「遊園地」を目的に訪れる客であるが、1970年には年間353万人を集めていた。このほとんどは「船橋ヘルスセンター」を訪れる客であった。しかし、前述のとおり1970年代に入ってから来訪客を減らし、1977年には閉鎖となり、東葛飾地域を訪れる「遊園地」目的のお客は大きく減少した。その後、1983年に「東京ディズニーランド」が開園し、再び「遊園地」目的の客が増加に転じ、今ではこの地域の入込客数の半数以上を占めるよう至った。次に、「海水浴客」をみると、1970年当時は、年間93万人存在した。しかし、東京湾岸の埋め立ての進捗により、1971年以降は統計上の数値には見られなくなった。加えて、「社寺参詣」や「各種催事」の集客数がこの地域の観光入込客数の数値を押し上げている。「社寺参詣」については、「法華経寺」のある市川市、「霊波乃光教会」のある野田市において多く見られる。「各種催事」は、船橋・松戸・柏の各市の市民まつりが計上された結果となっている。

表15 観光入込客数の推移（東葛飾地域）

（単位：千人）

	1970年		1980年		1990年		2000年		2003年	
入込数	合 計	8,390	合 計	11,743	合 計	35,029	合 計	35,029	合 計	47,330
	宿 泊	299	宿 泊	41	宿 泊	1,854	宿 泊	1,854	宿 泊	9,007
	日帰り	8,091	日帰り	11,702	日帰り	33,175	日帰り	33,175	日帰り	38,321
主な目的	遊園地	3,532	社寺参詣	6,006	遊園地	18,184	遊園地	18,393	遊園地	27,627
	社寺参詣	1,076	各種催物	1,458	社寺参詣	7,382	社寺参詣	8,003	社寺参詣	6,586
	海水浴	930	遊園地客	1,290	各種催物	4,260	各種催物	5,164	各種催物	4,251
	花 見	536	花 見	850	花 見	1,576	花 見	2,574	一般観光その他	3,407
	ゴルフ	498	ゴルフ	844	ゴルフ	905	スポーツ観光他	2,399	花 見	1,376

出所：「千葉県観光統計概要（各年版）」、「観光入込調査概要（各年版）」をもとに作成。

宿泊客については、2005年には東葛地域全体で延べ3,169,285人泊を集めているが、その85%に相当する2,702,000人泊が浦安市の滞在となっている。浦安市の宿泊客は前出の表10を見てわかるように、1980年代の後半以降に増加している。東京ディズニーランド周辺に、1986年から1990年にかけてホテルが5軒、1990年代半ばに新浦安駅周辺に2軒開業したことに加え、2000年以降には「イクスピアリ」「東京ディズニーシー」の開業にともない、舞浜・新浦安の両地区にホテルが相次いで5軒営業を開始した。今後とも2軒の開業が予定されている。

表16 浦安市内の主要なホテルの開業状況

年	宿泊施設の開業等	地区	客室数
1986	サンルートプラザ東京	舞浜	696
1988	シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル	舞浜	802
	東京ベイヒルトンインターナショナル	舞浜	801
	第一ホテル東京ベイ	舞浜	427
1990	東京ベイホテル東急	舞浜	701
1993	浦安プライトンホテル	新浦安	185
1995	新浦安オリエンタルホテル	新浦安	506
2000	ディズニーアンバサダーホテル	舞浜	504
2001	ホテルミラコスタ	舞浜	502
2004	ホテルドリームゲート 舞浜	舞浜	80
2005	パーム&ファウンテンテラスホテル	新浦安	702
	ホテルエミオン東京ベイ	新浦安	380
	ホテルマイステイズ舞浜	舞浜	90
2007	東京ベイ舞浜ホテル	舞浜	600
2008	東京ディズニーランドホテル	舞浜	700

※ ホテルの客室数は、開業時のものではなく、現在公表されているものである。

※ 「第一ホテル東京ベイ」は、2002年より「ホテルオークラ東京ベイ」として運営している。

(3) 印旛地域

印旛地域の主な都市としては、佐倉市、成田市、富里市、印西市、栄町などがあげられる。

観光開発の過程を見ていくと、博物館・美術館が整備されてきた地域で

あると見ることができる。国や県によって「房総風土記の丘」（1976年）、「国立歴史民俗博物館」（1983年）、「千葉県立房総のむら」（1986年）が整備されてきている。また、1990年には民間によって佐倉市に「川村記念美術館」が開業している。

表17 観光関連の集客施設の開業状況などの動き(印旛地域)

年	名 称 等
1966	成田市に新東京国際空港設置が決定
1974	〔県〕 酒々井ちびっこ天国
1976	〔県〕 房総風土記の丘（栄町）
1978	新東京国際空港が開港
1983	〔国〕 国立歴史民俗博物館（佐倉市）
1985	成田国際観光モデル地区指定
1986	〔県〕 千葉県立房総のむら（栄町）
1990	〔民〕 川村記念美術館（佐倉市）
1994	成田市が運輸省から国際会議観光都市に指定
2002	成田空港暫定平行滑走路の供用開始
2004	〔県〕 「房総風土記の丘」を「房総のむら」に統合

※ 表のうち、〔民〕は民間、〔県〕は県、〔自〕は市町村、〔他〕はその他の団体が主体となって当該施設の整備を行ったことを示す。

表18 観光入込客数の推移（印旛地域）

（単位：千人）

	1970年		1980年		1990年		2000年		2003年	
入込数	合 計	11,679	合 計	13,932	合 計	18,662	合 計	17,190	合 計	15,946
	宿 泊	132	宿 泊	701	宿 泊	1,155	宿 泊	1,743	宿 泊	2,040
	日帰り	11,547	日帰り	13,231	日帰り	17,507	日帰り	15,447	日帰り	13,906
主な目的	社寺参詣	10,246	社寺参詣	11,570	社寺参詣	14,395	社寺参詣	12,344	社寺参詣	10,948
	花 見	741	ゴルフ	660	ゴルフ	949	各種催物	1,503	各種催物	1,438
	ゴルフ	395	川つり	336	一般観光その他	924	ゴルフ	995	文化財等見学	950
	川つり	126	文化財等見学	163	各種催物	901	一般観光その他	903	ゴルフ	938
	ハイキング	58	一般観光その他	103	文化財等見学	771	文化財等見学	677	一般観光その他	859

出所：『千葉県観光統計概要（各年版）』、『観光入込調査概要（各年版）』をもとに作成。

観光入込客数を目的別に見ていくと、過去30年以上にわたり、「社寺参詣」目的の来訪客が大半を占めていることがわかる。そのほとんどは成田市にある「成田山新勝寺」への来訪者であり、これに「宗吾霊堂」（成田

表19 成田市内および周辺の主要なホテルの開業状況

年	名称	地区	客室数
1974	成田ビューホテル	空港周辺	501
1975	成田プラザホテル	空港周辺	500
1978	ホテル日航成田	空港周辺	720
	成田プリンスホテル	空港周辺	316
	成田インターナショナルホテル	空港周辺	496
	成田エアポートレストハウス	空港周辺	210
1981	ホテルセントラーザ成田	成田駅周辺	268
1985	成田東急イン	空港周辺	712
1987	ホテルレッツ成田	成田駅周辺	248
	成田U－シテイホテル	成田駅周辺	102
1989	成田全日空ホテル	空港周辺	396
1992	成田ホテルフジタ	空港周辺	299
	成田菊水ホテル	成田駅周辺	245
1993	リーガロイヤルホテル成田	空港周辺	548
1995	マロウドインターナショナルホテル成田	空港周辺	800
1996	インターナショナルガーデンホテル成田	成田駅周辺	463
2000	センターホテル成田	成田駅周辺	130
2004	コンフォートホテル成田	成田駅周辺	142

- ※ ホテルの客室数は、開業時のものではなく、現在公表されているものである。
- ※ 「成田プラザホテル」は、1987年に東武鉄道に営業権が移り、現在は「ホリデイ・イン東武成田」として営業している。
- ※ 「成田プリンスホテル」は、1989年5月に日本航空系の企業TFKに譲渡され「成田ウインズホテル」となり、2000年4月より「ホテル日航ウインズ成田」となっている。
- ※ 「ホテルセントラーザ成田」は2001年3月に閉鎖された。
- ※ 「成田インターナショナルホテル」は、現在「ラディソンホテル成田エアポート」となっている。
- ※ 「成田東急イン」は、1993年10月に「成田東急ホテル」に、2002年4月に「成田エクセルホテル東急」に名称変更している。
- ※ 「ホテルレッツ成田」は閉鎖後、投資ファンドのローンスターに買収され、2003年7月に「メルキュールホテル成田」となっている。
- ※ 「成田ホテルフジタ」は、1996年9月より「成田エアポートワシントンホテル」となっている。
- ※ 「リーガロイヤルホテル成田」はイシホテルグループに買収され、2002年4月より現在の「ヒルトン成田」となっている。
- ※ 「インターナショナルガーデンホテル成田」は2004年9月に経営権がイシホテルグループにわたっている。

市)を訪れる客が加わっているという状況である。「ゴルフ」目的の来訪客については、成田市、印西市、白井市、印旛村などにゴルフ場が存在するために年々増加し、1990年代以降は、印旛地域だけで年間90万人を集めている。そのほか注目されるのが「文化財等見学」であり、「国立歴史民

俗博物館」「房総のむら」「川村記念美術館」の影響が大きい。

宿泊客については、古くは成田山新勝寺の門前町にある旅館の利用客が見られる程度であったが、1978年に成田空港が開港して以降、空港関係の利用客の宿泊の増加が続き、2005年には成田市で2,411,362人泊、富里市で21,391人泊の滞在を数えるまでになった。この2市だけで印旛地域の宿泊客の96.3%を占めている。成田空港周辺のホテルの開業状況を表19にまとめている。これによると、1978年の空港開港にあわせて、空港周辺の市街化調整区域に相次いで開業した。ところが、1976年には成田空港周辺の市街化調整区域におけるホテル進出を認めない方針を打ち出すことになってしまい⁵⁾、しばらくホテルの開業が見られない事態となった。1987年にホテル新設受付が再開され、その後1980年代後半から1990年代半ばにかけて、成田駅前や、空港の周辺に続々とホテルが開業した。しかし、2000年以降は、経営不振により閉鎖するホテルが見られたほか、イシンホテルグループなどの外資系企業に所有権が移転したホテルが出てくるなど、所有・経営・運営の形態を変更したところが現れるようになった。

(4) 香取地域

香取地域は、現在は香取市となった佐原市、小見川町のほか、多古町などから構成される。

開発の状況を見ていくと、佐原市の小野川周辺の重要伝統的建造物群の周辺が注目される。1986年頃から町並み景観整備を進めようとする動きが出始めた。1991年には住民による「小野川と佐原の町並みを考える会」が発足し、翌年には市長に町並み保存計画を提案するに至った。1994年には「佐原市歴史的景観条例」が公布され、翌年には市役所に「まちづくり推進室」が設置されるなど、行政側の体制も整い、1996年には重要伝統的建造物群保存地区に指定されるに至った。その後、1998年に「伊能忠敬記念館」が新たに建て替えられて開業したほか、2000年に「佐原市中心市街地

表20 観光関連の集客施設の開業状況などの動き(香取地域)

年	名 称 等
1969	〔自〕 佐原市立水生植物園
1986	佐原市で町並み景観整備を目指す動きが見られるようになる
1987	〔民〕 成田ゆめ牧場(下総町)
1996	佐原 重要伝統的建造物群保存地区に指定(商家町、7.1ha)
1998	〔自〕 伊能忠敬記念館《1961年開館のものを建替》(佐原市)
2001	〔自〕 道の駅「多古あじさい館」
2002	〔自〕 道の駅「くりもと紅小町の郷」

※ 表のうち、〔民〕は民間、〔県〕は県、〔自〕は市町村、〔他〕はその他の団体が主体となって当該施設の整備を行ったことを示す。

表21 観光入込客数の推移(香取地域)

(単位:千人)

	1970年		1980年		1990年		2000年		2003年	
入込数	合 計	1,559	合 計	2,728	合 計	5,157	合 計	5,579	合 計	6,282
	宿 泊	32	宿 泊	125	宿 泊	115	宿 泊	129	宿 泊	133
	日帰り	1,527	日帰り	2,603	日帰り	5,042	日帰り	5,450	日帰り	6,149
主な目的	社寺参詣	636	社寺参詣	1,507	社寺参詣	2,523	社寺参詣	2,325	社寺参詣	2,299
	川つり	397	各種催物	251	各種催物	738	各種催物	1,166	各種催物	1,261
	各種催物	187	川つり	184	ゴルフ	642	ゴルフ	785	一般観光その他	1,069
	一般観光その他	165	遊園地	181	花 見	407	花 見	353	ゴルフ	754
	花 見	61	ゴルフ	164	一般観光その他	308	一般観光その他	289	花 見	272

出所:『千葉県観光統計概要(各年版)』、『観光入込調査概要(各年版)』をもとに作成。

活性化基本計画」が策定され、2002年にはこれを実行するTMO(Town Management Organization)である「株式会社ぶれきめら」によって、小野川での舟めぐりや駐車場の運営が行われるなどの取り組みが行われている⁶⁾。

佐原市以外では、2001年に「多古あじさい館」(多古町)、2002年に「くりもと紅小町の郷」(栗源町)と道の駅が開設された。

入込客数の推移を見ていると、日帰り客総数自体は、1980年代以降に増加している一方で、宿泊客数は大きく減少している。この要因としては、地域内に宿泊施設群がないことや、隣接する茨城県潮来市に多数の宿泊施設が存在することも影響していると考えられる。

目的別にみていくと、その多くが「社寺参詣」または「各種催物」となっている。ほとんどの「社寺参詣」客の訪問先は「香取神宮」である。「各種催物」は、「佐原の大祭」「式年神幸祭」「佐原花火大会」を目的とするお客が占めている。注目されるのは「ゴルフ」客であり、山田町、多古町、栗源町などのゴルフ場を訪れる客数が、1980年以降2000年に至るまで増加が続いた。「一般観光・その他」の客数が2003年に急激に増加しているのは、栗源町・多古町に開設された道の駅への来訪者が含まれているためである。

(5) 海匝地域

海匝地域には、銚子市、旭市などが含まれる。

開発の過程を見ていくと、銚子市内については、1960年代後半から1970年代初頭にかけて、民間ならびに県によって観光施設の開発が行われた。その後しばらくは動きがなかったが、1990年前後には、銚子市によって「地球の丸く見える丘展望館」（1988年）、県によってポートタワーと水産物即売センターからなる「水産ポートセンター」（1991年）が開設された。その後も「いるかウォッチング」の開始（1995年）、「銚子マリーナ」の開設（1999年）、温泉掘削など、新たな魅力づくりの取り組みが見られる。2000年以降は、周辺の飯岡町に県による「飯岡刑部岬展望館～光と風～」(2001年)が、八日市場市に市による都市農村交流施設「ふれあいパーク八日市場」（2002年）が開業した。かつては民間事業者による施設建設が見られたが、近年では地元の自治体や県によるものがほとんどとなっている状況である。

観光入込客数は地域全体では増加傾向にある。目的別に見ていくと、一般観光客が多い。銚子市内の「地球の丸く見える丘展望館」「犬吠埼灯台」「水産ポートセンター」「犬吠埼マリンパーク」を訪れる人が従来から多いほか、近年では飯岡町の「刑部岬展望館」、八日市場市の「ふれあいパー

表22 観光関連の集客施設の開業状況などの動き(海匝地域)

年	名 称
1968	〔民〕 犬吠スカイタワー (銚子市)
1973	〔県〕 犬吠オーシャンランド (銚子市)
1974	〔民〕 犬吠埼マリパーク (銚子市)
1985	N H K連続テレビ小説「滯つくし」放映《銚子が舞台》
1988	〔自〕 地球の丸く見える丘展望館 (銚子市)
1989	犬吠埼灯台のライトアップ開始
1991	〔県〕 水産ポートセンター (銚子市)
1995	〔民〕 いるかウォッチング開始 (銚子市)
1999	〔県〕 名洗港 銚子マリーナ
1997	犬吠埼観光ホテルで温泉の掘削成功
2000	京成ホテルが犬吠埼のホテルで温泉を掘削成功
2001	〔県〕 飯岡刑部岬展望館～光と風～ (飯岡町)
2002	〔自〕 ふれあいパーク八日市場
2003	銚子フィルムコミッション設立

※ 表のうち、〔民〕は民間、〔県〕は県、〔自〕は市町村、〔他〕はその他の団体が主体となって当該施設の整備を行ったことを示す。

ク八日市場」への来訪客も多く見られるようになった。また銚子市内の醤油工場への見学者も継続的に見られる。一方で、従来多く見られた「海水浴」を目的とする人は年々減少し、1990年代以降は飯岡町域を中心に「サーフィン」客が登場した。

2005年の宿泊客数は延べ452,373人泊であり、そのうち275,178人泊

表23 観光入込客数の推移 (海匝地域)

(単位:千人)

	1970年		1980年		1990年		2000年		2003年	
入込数	合 計	2,166	合 計	2,185	合 計	4,030	合 計	4,322	合 計	5,292
	宿 泊	451	宿 泊	513	宿 泊	621	宿 泊	469	宿 泊	420
	日帰り	1,715	日帰り	1,672	日帰り	3,409	日帰り	3,853	日帰り	4,872
主な目的	海水浴	768	一般観光その他	491	社寺参詣	1,053	一般観光その他	1,228	一般観光その他	2,466
	一般観光その他	522	各種催物	444	各種催物	929	社寺参詣	1,068	社寺参詣	1,054
	各種催物	227	海水浴	256	一般観光その他	825	各種催物	797	各種催物	722
	海つり	119	海つり	206	海水浴	337	海つり	257	サーフィン	266
	工農場見学	119	工農場見学	158	サーフィン	271	海水浴	246	海つり	221

出所:『千葉県観光統計概要(各年版)』、『観光入込調査概要(各年版)』をもとに作成。

(60.8%) が銚子市内である。特に銚子市に限ってみると、1985年に同地が舞台となったNHK連続テレビ小説「滯つくし」が放映され、この年には従来になく多くの宿泊客を集めた。市内の宿泊施設は、旅館業態が多くなったおり、1960年代から1980年代前半に新設されたり、従来からあった老舗の旅館が改築し大型化したものがほとんどである。近年では、1997年に犬吠埼観光ホテルで、2000年に京成ホテルで温泉掘削に成功し、犬吠埼温泉郷として集客に取り組んでいる。

表24 銚子市内の主要なホテルの開業状況

年	宿泊施設の開業等	客室数
1963	銚子市営国民宿舎犬吠ホテル	39
1964	犬吠埼京成ホテル	44
	ホテルニュー大新	72
1973	犬吠埼観光ホテル	24
1974	グランドホテル磯屋《改築》	108
1986	ぎょうけい館	33
1987	銚子プラザホテル	28

※ 客室数20室以上の宿泊施設を掲載。

※ ホテルの客室数は、開業時のものではなく、現在公表されているものである。

(6) 山武地域

山武地域は、東金市、大網白里町、九十九里町などから構成される。

開発の過程をみていくと、1970年代の前半に千葉県による開発が多く見られたのがこの地域の特徴である。蓮沼村では、建設省が策定した「レクリエーション都市整備要綱」により、1971年に「蓮沼海浜公園」の整備が進められ、1975年の「ウォーターガーデン」を皮切りに各施設が次々と開業した。横芝町では水泳施設「横芝海のこどもの国」が1972年に開業した。九十九里町には「千葉県国民宿舎 九十九里センター」が1969年に開設され、1996年に改築され「サンライズ九十九里」として再出発している。

観光入込客数を目的別に見ていくと、「海水浴」「ゴルフ」の客が多い。「海水浴」については、特に九十九里町、大網白里町、成東町は、県内で

表25 観光関連の集客施設の開業状況などの動き(山武地域)

年	名 称
1969	〔県〕 千葉県国民宿舎 九十九里センター開業
1971	〔県〕 蓮沼海浜公園の整備を開始
1972	〔県〕 横芝海のこどもの国
1975	〔県〕 蓮沼海浜公園ウォーターガーデン
1982	〔自〕 いわし博物館(九十九里町)
1985	〔県〕 蓮沼海浜公園展望塔
1986	〔自〕 九十九里ふるさと自然公園センター
1989	〔他〕 航空科学博物館(芝山町)
1996	〔県〕 サンライズ九十九里《千葉県国民宿舎 九十九里センターの改築》
2000	〔自〕 町おこしビーチ改革事業(成東町)
2005	〔自〕 道の駅「オライはすぬま」

※ 表のうち、〔民〕は民間、〔県〕は県、〔自〕は市町村、〔他〕はその他の団体が主体となって当該施設の整備を行ったことを示す。

※ 「いわし博物館」は2004年の爆発事故以降、閉鎖中。

表26 観光入込客数の推移(山武地域)

(単位:千人)

	1970年		1980年		1990年		2000年		2003年	
入込数	合 計	2,975	合 計	1,874	合 計	4,088	合 計	5,421	合 計	3,860
	宿 泊	421	宿 泊	331	宿 泊	433	宿 泊	157	宿 泊	186
	日帰り	2,554	日帰り	1,543	日帰り	3,655	日帰り	5,264	日帰り	3,674
主な目的	海水浴	2,433	海水浴	752	海水浴	1,348	海水浴	1,995	海水浴	776
	社寺参詣	139	社寺参詣	208	遊園地	546	ゴルフ	573	ゴルフ	616
	花 見	117	ゴルフ	194	文化財等見学	311	一般観光その他	844	一般観光その他	465
	各種催物	66	潮干狩	127	ゴルフ	308	遊園地	393	社寺参詣	297
	海つり	43	各種催物	96	工農場見学	243	社寺参詣	297	文化財等見学	287

出所:「千葉県観光統計概要(各年版)」、「観光入込調査概要(各年版)」をもとに作成。

も多くの来訪客を集める自治体となっているが、天候による変動もあるものの、ここ数年は減少傾向にある(表27)。「ゴルフ」目的の来訪客は、東金市、大網白里町、芝山町で見られ、1990年代以降は増加が続いている。「遊園地」客は、千葉県が主体となって整備した蓮沼村、横芝町へのプール利用客で構成されるが、これも一時に比べれば減少し、近年は横ばい傾向となっている。

宿泊客は、1990年代後半以降は一時大きく減少したものの、2005年は238,854人泊とやや回復している。海水浴場や国民宿舎「サンライズ九十九里」のある九十九里町（98,680人泊）、プールなど海浜公園の整備されている蓮沼村（42,163人泊）で多く見ることができる。

表27 山武地域の主要自治体の海水浴客数

(単位:千人)

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
3町合計	1,875	2,013	701	1,159	1,076
九十九里町	830	821	360	709	645
大網白里町	378	504	151	239	251
成東町	667	688	190	211	180

出所:『観光入込調査概要(各年版)』をもとに作成。

(7) 長生地域

長生地域は、茂原市を中心に、一宮町、白子町、長生村などから構成される。

開発の過程をみていくと、白子町での動きが中心となる。1964年の海水浴場の開設にはじまり、1960年代後半には、国民宿舎（1965年）や民宿が相次いで開業したほか、町営の温泉センターも開設されるなど、現在の白子町の基盤が整いつつあった。1971年以降は、テニスコートと温泉を備え

表28 観光関連の集客施設の開業状況などの動き(長生地域)

年	名 称
1967	〔自〕 白子町営温泉センター
1971	〔民〕 白子町中里地区でテニスコートの整備がはじまる
1973	人工砂風呂(白子町)
1986	〔自〕 ひめはるの里(茂原市)
1989	白子温泉組合設立
1990	〔自〕 アクア健康センター(白子町)
2002	〔自〕 道の駅「ながら」
2002	〔自〕 道の駅「つどいの郷むつざわ」

※ 表のうち、〔民〕は民間、〔県〕は県、〔自〕は市町村、〔他〕はその他の団体が主体となって当該施設の整備を行ったことを示す。

た民宿・旅館の開設が続いた。現在では白子町内に460面のテニスコートを備えるまでになった。このほか、2002年には、長柄町、睦沢町で相次いで道の駅が開業している。

入込客数を目的別に見ていく。長年にわたって来訪客の目的として上位を占めているのが「各種催物」であり、そのほとんどを「茂原七夕まつり」への来訪者が占めている。スポーツ関連の来訪客も1980年代以降に多く見られるようになった。「ゴルフ」目的のお客は長南町を中心に、茂原市、一宮町、睦沢町、長柄町を訪れている。「テニス」目的の来訪客は、白子町を訪れている。さらに、一宮町を中心に「サーフィン」を目的とする来訪客も増加している。一方、「海水浴」客は年々減少している。

表29 観光入込客数の推移（長生地域）

（単位：千人）

	1970年		1980年		1990年		2000年		2003年	
入込数	合計	1,841	合計	2,897	合計	4,452	合計	5,183	合計	4,987
	宿泊	192	宿泊	652	宿泊	940	宿泊	798	宿泊	795
	日帰り	1,649	日帰り	2,245	日帰り	3,512	日帰り	4,385	日帰り	4,192
主な目的	海水浴	825	各種催物	813	各種催物	1,048	一般観光その他	1,011	各種催物	999
	各種催物	403	社寺参詣	600	一般観光その他	832	各種催物	984	一般観光その他	962
	ゴルフ	136	海水浴	539	ゴルフ	678	ゴルフ	764	ゴルフ	839
	花見	86	ゴルフ	375	海水浴	534	サーフィン	623	サーフィン	600
	遊園地	78	一般観光その他	120	テニス	359	テニス	428	テニス	422

出所：『千葉県観光統計概要（各年版）』、『観光入込調査概要（各年版）』をもとに作成。

宿泊客は、1970年代後半以降増加してきており、現在はピーク時を下回るものの、2005年には603,999人泊の滞在となっている。その中心となっているのは白子町であり、この地域の64.7%に相当する391,000人泊が集中している。白子町には、温泉とテニスコートが存在しており、これにより、多くの来訪客が宿泊滞在することにつながっていると考えられる。

（8）夷隅地域

夷隅地域は、勝浦市、御宿町、大多喜町などから構成されている。

開発の過程を見ていくと、勝浦市内では、1960年代には民間による「行川アイランド」などが、1974年の勝浦海中公園指定を受けて1980年には県による「勝浦海中公園センター」が開業するなど、集客施設が相次いで整備された。その後20年ほど動きはなかったが、1997年には民間事業者によるタラソテラピーを提供する「テルムラマン・パシフィック」、1998年には勝浦ホテル三日月に温浴施設「アクアパレス」、1999年には県による「海の博物館」が新たに開設された。しかし、2001年には経営悪化にともない「行川アイランド」が閉鎖となった。御宿町内では、1990年に「月の砂漠記念館」、1999年には「ONJUKUまるごとミュージアム」を展開するなどの動きがある。大多喜町内では、1980年代半ばに「ハーブアイランド」「大多喜県民の森」が整備されたほか、2000年には道の駅「たけゆらの里 おおたき」が開業している。

入込客数は、減少傾向にある。目的別に見ていくと、1990年代初頭までは「海水浴」を目的とする来訪客が多く見られ、この地域を訪れる客の大

表30 観光関連の集客施設の開業状況などの動き(夷隅地域)

年	集客施設の開業等
1964	〔民〕 行川アイランド（勝浦市）
1967	〔民〕 クアハウス勝浦パークランド
1974	勝浦海中公園指定
1980	〔県〕 千葉県勝浦海中公園センター
1984	〔民〕 ハーブアイランド（大多喜町）
1985	〔県〕 大多喜県民の森
1990	〔自〕 月の砂漠記念館（御宿町）
1997	〔民〕 テルムラマン・パシフィック（勝浦市）
1998	〔民〕 勝浦ホテル三日月「アクアパレス」
1999	〔県〕 海の博物館（勝浦市） ONJUKUまるごとミュージアムを展開
2000	〔自〕 道の駅「たけゆらの里 おおたき」
2001	〔民〕 行川アイランド《閉鎖》

※ 表のうち、〔民〕は民間、〔県〕は県、〔自〕は市町村、〔他〕はその他の団体が主体となって当該施設の整備を行ったことを示す。

多数を占めていたが、1990年代以降はその数を大きく減らしている。一方で、近年は「サーフィン」目的の来訪客を集めるようになってきている。「行川アイランド」を中心に「勝浦海中公園センター」「アクアパレス」を訪れる「遊園地」を目的とする客は、1990年代までは相当の比率を占めていたが、「行川アイランド」が閉鎖となって以降は、その数を大きく減らしている。「一般観光」客は、大多喜町内を訪れる人が多く、なかでも、2000年に開業した「道の駅たけゆらの里おおたき」への来訪客が多くを占めているのが現状である。「ゴルフ」目的の来訪客については、1980年代以降、大多喜町を中心に多く見ることができるようになった。

表31 観光入込客数の推移（夷隅地域）

（単位：千人）

	1970年	1980年	1990年	2000年	2003年
入込数	合計 5,602	合計 5,177	合計 6,907	合計 5,199	合計 4,629
	宿泊 1,374	宿泊 1,691	宿泊 1,466	宿泊 936	宿泊 759
	日帰り 4,228	日帰り 3,486	日帰り 5,441	日帰り 4,263	日帰り 3,870
主な目的	海水浴 3,064	海水浴 2,093	海水浴 2,822	一般観光その他 1,090	一般観光その他 1,223
	遊園地 1,811	遊園地 1,403	遊園地 1,119	海水浴 920	海水浴 532
	海つり 190	一般観光その他 630	一般観光その他 763	各種催物 501	各種催物 525
	一般観光その他 181	海つり 227	各種催物 562	遊園地 586	ゴルフ 456
	キャンプ 92	ゴルフ 200	ゴルフ 497	サーフィン 492	文化財等見学 453

出所：『千葉県観光統計概要（各年版）』、『観光入込調査概要（各年版）』をもとに作成。

宿泊客については、1970年代後半をピークに、年々減少が続いてきており、2005年については548,923人泊となっている。従来からそのほとんどが勝浦市（311,542人泊）と御宿町（172,009人泊）に滞在していることは変わらない。

（9）安房地域

安房地域には、館山市、鴨川市をはじめ、現在は南房総市となった、富浦町、富山町、三芳村、千倉町、和田町、丸山町、白浜町などが含まれる。

観光開発の状況をみていくと、1960年代後半から1970年代初頭にかけて、

県や民間による集客施設が次々と整備された。しかし、その後1990年代以降は、地域内の各地で道の駅の開業が相次いだ。そのさきがけとなったのは、1993年に開設された「枇杷倶楽部」（富浦町）、「鄙の里」（三芳村）である。とくに「枇杷倶楽部」の取り組みは全国から注目を集めた。その後、1997年の東京湾アクアラインの開業を控え、鴨川市、千倉町などにもその動きが広がった。

宿泊施設について見ていくと、1960年代から1970年代初頭、および1980年前後に、鴨川、小湊、白浜、館山の各地に、民間および公共の大型の宿泊施設が開発された。1980年代から1990年代にかけては、館山・千倉を中心にペンションが相次いで開業した。リゾート法にわいた1990年前後にも

表32 観光関連の集客施設の開業状況などの動き(安房地域)

年	名 称
1965	〔自〕 鴨川市営太海フラワーセンター・磯釣センター
1965	〔民〕 白浜海洋美術館
1970	〔民〕 鴨川シーワールド
	〔県〕 南房パラダイス（館山市）
	〔県〕 内浦山県民の森（鴨川市）
1973	〔県〕 千葉県安房博物館（館山市）
1974	〔県〕 館山野鳥の森
1991	〔民〕 海岸美術館（千倉町）
	〔自〕 ローズマリー公園（丸山町）
1993	〔自〕 道の駅「とみうら 枇杷倶楽部」
	〔自〕 道の駅「三芳村鄙の里」
1995	〔県〕 酪農のさと（丸山町）
1997	〔自〕 丸山町シェイクスピア・カントリー・パーク
	〔自〕 道の駅「鴨川オーシャンパーク」
	〔自〕 道の駅「ちくら潮風王国」
2003	〔自〕 道の駅「富楽里とみやま」
	〔自〕 道の駅「おおつの里」（富浦町）
2004	鴨川温泉組合設立
2005	千倉、館山で温泉組合設立
2006	〔自〕 道の駅「白浜野島崎」

※ 表のうち、〔民〕は民間、〔県〕は県、〔自〕は市町村、〔他〕はその他の団体が主体となって当該施設の整備を行ったことを示す。

大型の宿泊施設が整備されたが、それ以降は新たな大規模な宿泊施設はほとんど開業していない。

入込客数は、東京湾アクアラインが開通した直後の1998年から2001年にかけてがピークとなっており、近年では減少傾向となっている。来訪客の目的も時代とともに変化してきている。まず「海水浴」客については、かつては小中学校の臨海学校が富山町などで行われていたこともあり、安房地域を訪れるお客の目的の中でも最も大きいものであったが、1990年代以降は大きくその数を減らしている。次に「遊園地」目的の客が多くなっており、年間100万人近くを集客する「鴨川シーワールド」をはじめ、「南房パラダイス」「白浜フラワーパーク」「シェイクスピア・カントリー・パーク」などが貢献している。そして現在では「一般観光」客が多くなっており、1990年代後半以降に相次いで開業した、「とみうら枇杷倶楽部」「三芳村鄙の里」「鴨川オーシャンパーク」「ちくら潮風王国」「富楽里とみやま」などの道の駅を訪れる人によってその数値が押し上げられている。「社寺参詣」「花摘み」目的の客についても従来からコンスタントに集めている。「社寺参詣」については「誕生寺」「清澄寺」「日本寺」などを訪れる人が多い。「花摘み」に関連して、近年では三芳村や千倉町などでの体験農業客も増加してきている。

表33 観光入込客数の推移（安房地域）

（単位：千人）

	1970年		1980年		1990年		2000年		2003年	
入込数	合計	8,471	合計	11,536	合計	12,149	合計	14,181	合計	13,572
	宿泊	3,920	宿泊	4,556	宿泊	4,365	宿泊	3,049	宿泊	2,827
	日帰り	4,551	日帰り	6,980	日帰り	7,784	日帰り	11,132	日帰り	10,745
主な目的	海水浴	3,719	一般観光その他	3,462	一般観光その他	2,771	一般観光その他	4,142	一般観光その他	4,322
	一般観光	2,183	海水浴	2,812	遊園地	2,215	遊園地	2,776	遊園地	2,627
	社寺参詣	730	遊園地	1,683	海水浴	1,908	社寺参詣	1,478	社寺参詣	1,548
	遊園地	565	社寺参詣	975	社寺参詣	1,418	花見・花摘み	1,517	花見・花摘み	1,311
	文化財等見物	462	花見・花摘み	846	花見・花摘み	957	海水浴	983	海つり	584

出所：「千葉県観光統計概要（各年版）」、「観光入込調査概要（各年版）」をもとに作成。

宿泊客数の動向を見ていこう。この地域は、県内の中でも宿泊客数の多い地域であるが、その数は1970年代半ばをピークに減少傾向が続いている。

表34 安房地域内の主要なホテルの開業状況

年	名称	地区	客室数
1962	南国ホテル	白浜	103
1963	三水ホテル	小湊	29
1964	休暇村館山	館山	73
1965	ニューこみなとホテル《新築》	小湊	97
	グランドホテル太陽	白浜	97
	鴨川グランドホテル	鴨川	125
	白浜京成ホテル	白浜	52
1966	鳩山荘	館山	33
1968	たてやま夕日海岸ホテル	館山	49
	館山グランドホテル	館山	60
1971	チサンリゾート鴨川	鴨川	31
	鴨川シーワールドホテル	鴨川	75
	鴨川ユニバースホテル	鴨川	50
1972	平砂浦ビーチホテル	館山	39
1978	ホテルグリーンプラザ小湊	天津	62
	南海荘《新築》	白浜	90
	いこいの村たてやま	館山	38
1981	鴨川館	鴨川	65
1983	小湊ホテル三日月	小湊	171
1985	サットグランドホテル小湊	天津	65
1986	白浜京成ホテル《休業》	白浜	—
1987	リゾートイン白浜	白浜	52
	鴨川ロイヤルホテル	鴨川	56
1988	ホテルアクシオン館山	館山	145
	ホテルオーパ・ヴィラージュ	館山	28
1989	紀州鉄道房総白浜ホテル	白浜	97
1990	富浦ロイヤルホテル	富浦	191
1992	鴨川グランドタワー	鴨川	72
1998	ファミリーオ館山	館山	31

※ 客室数25室以上の主な宿泊施設を掲載。

※ ホテルの客室数は、開業時のものではなく、現在公表されているものである。

※ 「南国ホテル」は2004年に破産したが、その後2005年に再建した。

※ 「ニューこみなとホテル」は、現在の「満ちてくる心の宿 吉夢」。

※ 「鳩山荘」は2000年に「鳩山荘 松庵」になった。

※ 「リゾートイン白浜」は、前年に閉鎖した「白浜京成ホテル」を買収・改装したものである。

※ 「サットグランドホテル小湊」は、2006年9月「鴨川ヒルズリゾートホテル」になった。

とくに、海水浴客を多く集めていた鋸南町、富山町、富浦町、白浜町を中心とする地区で顕著である（表10）。2005年の延べ宿泊数は、2,403,800人泊となっており、鴨川市（1,073,721人泊）、館山市（479,976人泊）、白浜町（327,081人泊）といった、大型の宿泊施設を持つ自治体で多くなっている（表35）。一方、千倉町では宿泊施設数それ自体は多いが、客室数20室以下の小規模な旅館やペンションがほとんどを占めていることから宿泊客数は多くはない。また、安房地域は入込数に対する宿泊客数の比率を算出すると、県内でも高い値が算出される地域である。全県の平均が9.9%となっている中で、館山市（31.0%）、白浜町（30.9%）、鴨川市（22.3%）、富山町（20.3%）、富浦町（17.3%）では大きく上回っている。

表35 自治体別の宿泊客総数とホテル・旅館軒数（安房地域、2005年）

自治体名	全入込客数	宿泊客総数	日帰り客総数	宿泊客比率	ホテル・旅館軒数
安房地域全体	12,808,129	2,403,800	10,404,329	18.8%	516
鴨川市	4,822,144	1,073,721	3,748,423	22.3%	139
館山市	1,550,567	479,976	1,070,591	31.0%	120
白浜町	1,056,950	327,081	729,869	30.9%	56
富山町	1,002,837	209,250	793,587	20.9%	90
富浦町	1,065,398	184,541	880,857	17.3%	20
千倉町	1,248,485	80,617	1,167,868	6.5%	60
鋸南町	1,076,676	25,486	1,051,190	2.4%	13
和田町	242,304	12,711	229,593	5.2%	14
丸山町	393,268	7,616	385,652	1.9%	2
三芳村	349,500	2,801	346,699	0.8%	2

出所：『平成17年観光入込調査概要』、『事業所・企業統計調査（平成16年）』をもとに作成。

※ 全入込客数、宿泊客総数、日帰り客総数は2005年、ホテル旅館軒数は2004年の数値である。

※ 2005年2月に天津小湊町は鴨川市と合併したため、鴨川市の数値は従来の鴨川市・天津小湊町の合算である。

（10）君津地域

君津地域は、木更津市を中心に、君津市、富津市、袖ヶ浦市から構成される。

観光開発の過程を見ていくと、千葉県の観光を長く支えることになる2つの民間の施設が1960年代に開業した。1つは日本電波塔グループによる「マザー牧場」（1960年）であり、もうひとつは、京成電鉄による「鋸山ロープウェー」である。1970年代には地域の山間部に「清和県民の森」、「ロマンの森共和国」が相次いで開業した。しかし、その後は東京湾アクアラインが開業する1997年まで大きな動きは見られなかった。1997年には、千葉県によるコンベンション施設「かずさアーク」がつくられた。さらに、東京湾アクアラインの木更津人工島上に「海ほたるパーキングエリア」が開設された。その後、東京湾アクアラインの接岸部となる木更津・袖ヶ浦周辺には、民間による集客施設として、温浴施設の「スパ三日月龍宮城」、テーマパークの「東京ドイツ村」が相次いで開業した。

観光入込客数の推移を見ていくと、かつては、富津市内への「海水浴」目的の客を多く集めていたが、現在では大きく減少している。「遊園地」「工農場見学」の客は、「鋸山」「東京ドイツ村」「富津公園」「マザー牧場」

表36 観光関連の集客施設の開業状況などの動き(君津地域)

年	名 称
1951	〔県〕 富津公園
1960	〔民〕 マザー牧場（大佐和町、現富津市）
1962	〔民〕 鋸山ロープウェー（天羽町、現富津市）
1974	〔県〕 清和県民の森（君津市）
1976	〔民〕 ロマンの森共和国（君津市）
1976	〔県〕 富津公園ジャンボプール
1997	〔県〕 かずさアーク（木更津市）
1997	〔他〕 東京湾アクアライン 海ほたるパーキングエリア（横浜市）
1999	〔自〕 アクアわくわく市場（大規模物産販売所を開設）
1999	木更津市が運輸省から国際会議観光都市の指定を受ける
2000	〔民〕 スパ三日月 龍宮城（木更津市）
2001	〔民〕 東京ドイツ村（袖ヶ浦市）
2002	木更津キャッツアイ放映
2003	〔民〕 花ほたる（木更津市）

※ 表のうち、〔民〕は民間、〔県〕は県、〔自〕は市町村、〔他〕はその他の団体が主体となって当該施設の整備を行ったことを示す。

への来訪者が長年にわたって多数を占めている。2000年に入ってから、「一般観光」の客が増えている。このほとんどは、「海ほたるパーキングエリア」への立ち寄り客であり、これに「スパ三日月龍宮城」や「清和県民の森」などを訪れる客が加わっている。このほか、1980年代以降、君津市・袖ヶ浦市で「ゴルフ」目的の来訪者が増加していることも注目される。このように、現在の君津地域は、大型の集客施設やゴルフ場を訪れる来訪者が多いことがわかる。

宿泊客については、2005年の数値をみると、君津地域全体で442,372人泊である。そのうち70.8%に相当する313,107人泊が木更津市で発生している。かつては、富津市での宿泊客が多かったが、海水浴の衰退とともに現在では少なくなっている。

表37 観光入込客数の推移（君津地域）

（単位：千人）

	1970年		1980年		1990年		2000年		2003年	
入込数	合計	4,389	合計	4,384	合計	5,416	合計	13,298	合計	11,943
	宿泊	474	宿泊	644	宿泊	1,172	宿泊	896	宿泊	783
	日帰り	3,915	日帰り	3,740	日帰り	4,244	日帰り	12,402	日帰り	11,160
主な目的	遊園地	770	遊園地	764	遊園地	1,331	一般観光その他	6,928	一般観光その他	6,168
	ハイキング	751	工場見学	839	工場見学	1,106	遊園地	1,330	遊園地	1,511
	海水浴	517	潮干狩	692	ゴルフ	534	工場見学	942	工場見学	886
	海つり	512	各種催物	381	各種催物	512	各種催物	875	ゴルフ	792
	潮干狩	436	一般観光その他	271	潮干狩	354	ゴルフ	703	各種催物	637

出所：『千葉県観光統計概要（各年版）』、『観光入込調査概要（各年版）』をもとに作成。

5. 結論

これまで、千葉県観光の発展過程を千葉県の『観光統計調査概要』『観光入込調査概要』『事業所・企業統計調査』の各年版等を用いて検討してきた。その結果、次の点が明らかになった。

第1に、観光事業に大きく依存している自治体が県内にいくつか存在していることである。『事業所・企業統計調査（平成16年）』の結果について、

安房地域・夷隅地域の全17の自治体に限ってみていくと、所在する事業所のうちホテル・旅館が10%以上となっているところが3自治体、5%以上が5自治体となっている。また、全従業者のうちホテル・旅館に従事する人の比率をみると、10%以上が5自治体、5%以上が3自治体見ることができる。このほか、長生地域や香取地域については、全従業者のうち、ゴルフ場従業者数の比率が10%以上のところが2自治体、5%以上が4自治体存在している。このように、県内の一部の地域では、住民の雇用を生み出す産業として観光事業が位置づけられているといえよう。

第2に、都市部にある民間の事業者による特定の大型の集客施設が県内を代表する観光対象となっていることである。かつては「船橋ヘルスセンター」が、現在では「東京ディズニーリゾート」が全国から多くの来訪者を集めている。しかし、その集客力が、県内の各地に波及していないのが実情である。

第3に、県内の集客施設の整備においては、1960年代の早い時期から千葉県が、最近では各市町村が大きな役割を果たしていることがわかる。とくに、千葉・印旛・海匝・山武・夷隅・安房の各地域を見ていくと、県によって建設されてきた博物館、植物園、公園・プール、展示場、さらには1990年代以降に自治体が主体となって整備してきた道の駅が多くの来訪者を集めている。

第4に、1970年代後半から1990年代前半に至るまで、観光基盤整備・施設整備の大型の投資がされてこなかったことがあげられる。このことは、海匝・山武・長生・夷隅・安房・君津の各地域で顕著である。確かに1970年代前半までは、県や民間の事業者によって、大型の集客施設が作られてきた。しかし、1970年代後半以降は、官民とも新たなに大きな投資をするのを止めてしまったようである。換言すれば、新たな魅力づくりをしていない・できていない状況となったのである。その結果、集客数もかつてに比べると下落し、2000年前後からは、営業を終了する民間施設も出現する

ようになってきた。

第5に、1990年代以降、横並びのミニ開発が続いてしまったことがあげられる。特に安房地域では、1990年代後半に続々と道の駅が建設された。この背景として、1993年に開設された富浦町の道の駅「とみうら枇杷倶楽部」が全国的に有名になったこと、1997年に東京湾アクアライン開通による来訪者の増加を見込んだことがある。その結果、現在では安房地域だけで10カ所存在するようになった。ただし、道の駅は、本来は、道路利用者に対してトイレなどの休憩、道路や地域に関する情報の提供、特産品の加工販売などのさまざまなサービスを提供する施設である。観光客の行動を支援すべき施設は確かに必要ではあるが、その存在が本来の観光アトラクションよりも目につくようになってしまっているのが実情である。

第6に、海や社寺仏閣という資源に依存してきて、観光入込数を押し上げてきたことがあげられる。自然資源である「海」を利用して、これまで多数の「海水浴」目的の来訪客を集めてきた。「海水浴」は、7・8月しかシーズンがないとは言え、海の家などの休憩所を除けば大きな投資をしなくても対応することが可能である。しかし、近年では「海水浴」への志向が減少しており、これまで「海水浴」客に依存してながらも、なおかつ観光魅力の開発をしてこなかった地域では来訪客数を大きく減らすこととなった。また人文資源である「社寺仏閣」について、県内には「成田山新勝寺」「香取神宮」「法華経寺」「誕生寺」などの有名や社寺仏閣があるが、これについても、1月の初詣のシーズンに来訪者が集中してしまい、他の時期には催事を除いて人が集まらない状況である。

第7に、温泉が存在しないことの問題を指摘できる。1980年代の半ばから、テレビの旅行番組の影響で温泉ブームが到来した。その結果、温泉資源を有する観光地は相対的に集客する上で、とくに宿泊客を集める上で有利な状況となった。しかしながら、1980年代後半の千葉県内において温泉を売り出していたのは白子町くらいであった。しかし1990年代後半以降、

県内の各地で温泉を掘削する動きが広がり、2000年以降には、犬吠埼・鴨川・千倉・館山で温泉郷として売り出すに至った。しかし、県内の温泉の湧出量は、他の都道府県と比べると豊富とは言えず、ほとんどの「加水」「加温」「循環ろ過」による対応を行っている。形の上では温泉は存在しているが、必ずしも温泉資源は豊富ではないなかでまかなっているのが実情である。

2006年の現在、千葉県では観光立県ちばの実現、「ちばデスティネーションキャンペーン」の成功に向けてさまざまな取り組みをしている。活動内容をみていると、プロモーション活動に相当の力点を置いているように見える。確かに、プロモーションをして来訪者を呼び込むことは可能と見られる。しかし、本来の県内の観光魅力の開発に取り組まないことには、キャンペーンの効果は一過性で終わってしまうことが懸念されるのである。

注

- 1) 本稿は、敬愛大学経済文化研究所課題研究助成金（「千葉県の観光事業の発展過程」、研究代表者：中村 哲、2002～2003年度）を得て実施した成果のうち、『経済文化研究所紀要(10)』において、紙数の関係で報告されなかったものについて、最新の統計数値およびその後実施した調査結果を加味検討してまとめたものである。研究助成をいただいたことに対して、改めてお礼申し上げます。
- 2) 日本経済新聞、2004年9月15日。
- 3) 自治体名の本文中の表記であるが、合併が再び始まる2003年以前に使用されていたものを基準としている。
- 4) 千葉県では、2003年度末まで10の支庁が設置されていたが、現在は県民センターとなっている。ただし、統計については、かつての10の支庁ごとの自治体管轄区分を引き続き地域として扱っている。本稿においても、かつての千葉県の10の支庁区分を、地域区分とみなして分析する。
- 5) 日本経済新聞、1987年9月20日。
- 6) 佐原市の小野川周辺の重要伝統的建造物群を訪れる人数については統計には反映されていない。ただし、「伊能忠敬記念館」への入場者については反映されている。

参考文献

- 船橋市史編さん委員会（編）（1965）『船橋市史 現代編 上』、船橋市役所。
- 蓮沼村史編纂委員会（編）（1992）『蓮沼村史』、蓮沼村。
- 市原市教育委員会（編）（1982）『市原市史（下巻）』、市原市。
- 井口 梓・小島大輔・中村裕子・星 政臣・金 玉実・渡邊敬逸・田林 明・
トム・ワルデチュク（2006）「九十九里浜における観光の地域的特性：白
子町中里地区のテニス民宿を事例に」、『地域研究年報 28』、pp.127-166。
- 鴨川市史編さん委員会（編）（1996）『鴨川市史 通史編』、鴨川市。
- 丸井博（2000）「九十九里平野における観光資源とその利用」、『帝京大学文学
部紀要 教育学 25』、pp.1-16。
- 丸井博（2001a）「房総半島南部沿岸における観光資源とその利用：内房・外房
における観光の実情」『帝京大学文学部紀要 教育学 26』、pp.49-75。
- 丸井博（2001b）『南関東における都市化の進展：工業・商業・農業の成立』、
大明堂。
- 中村哲（2005）「千葉県の観光の発展過程と観光政策の変遷」、『経済文化研究
所紀要（敬愛大学）』、pp.75-106。
- 小川肇・小松孝之（1998）「東京湾アクアライン開通後のかずさ・南房総地域
の動向」、『ちば経済季報 35』、pp.1-17。
- 小川肇（1999）「東京湾アクアライン開通後の房総地域観光関連産業の動向」、
『国民金融公庫調査月報 458』、pp.30-33。
- 富山町史編さん委員会（編）（1993）『富山町史 通史編』、富山町。
- 山村順次（1991）「首都圏における千葉県観光の地位と地域的特性」、『千葉県
史研究 2』、pp.97-113。
- 財団法人千葉県観光公社（1992）『千葉県観光公社のあゆみ』、財団法人千葉県
観光公社。

参考資料

- 千葉県総合企画部統計課（2003）『平成13年事業所・企業統計調査結果（確報）』、
千葉県 <http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/b_toukei/jigyousyo/13kakuhou.html>、2004年12月27日。
- 千葉県総合企画部統計課（2006）『平成16年事業所・企業統計調査結果速報』、
千葉県 <http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/b_toukei/jigyousyo/16sokuhou.html>、2006年9月10日。
- 千葉県商工労働部観光課（1966）『観光統計概要 昭和40年』、千葉県。
- 千葉県商工労働部観光課（1967）『観光統計概要 昭和41年』、千葉県。
- 千葉県商工労働部観光課（1968）『観光統計概要 昭和42年』、千葉県。
- 千葉県商工労働部観光課（1969）『観光統計概要 昭和43年』、千葉県。

千葉県商工労働部観光課 (1970)『観光統計概要 昭和44年』、千葉県。
 千葉県商工労働部商政課 (1971)『観光統計概要 昭和45年』、千葉県。
 千葉県商工労働部商政課 (1972)『観光統計概要 昭和46年』、千葉県。
 千葉県商工労働部商政課 (1973)『観光統計概要 昭和47年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光課 (1974)『観光統計概要 昭和48年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光課 (1975)『観光統計概要 昭和49年』、千葉県。
 千葉県商工労働部商政課 (1976)『観光統計概要 昭和50年』、千葉県。
 千葉県商工労働部商政課 (1977)『観光統計概要 昭和51年』、千葉県。
 千葉県商工労働部商政課 (1978)『観光統計概要 昭和52年』、千葉県。
 千葉県商工労働部商政観光課 (1979)『観光統計概要 昭和53年』、千葉県。
 千葉県商工労働部商政観光課 (1980)『観光統計概要 昭和54年』、千葉県。
 千葉県商工労働部商政観光課 (1981)『観光統計概要 昭和55年』、千葉県。
 千葉県商工労働部商政観光課 (1982)『観光統計概要 昭和56年』、千葉県。
 千葉県商工労働部商政観光課 (1983)『観光統計概要 昭和57年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1984)『観光統計概要 昭和58年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1985)『観光統計概要 昭和59年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1986)『観光統計概要 昭和60年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1987)『観光統計概要 昭和61年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1988)『観光統計概要 昭和62年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1989)『観光統計概要 昭和63年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1990)『観光統計概要 平成元年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1991)『観光統計概要 平成2年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1992)『観光統計概要 平成3年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1993)『観光統計概要 平成4年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1994)『観光統計概要 平成5年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1995)『観光統計概要 平成6年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1996)『観光統計概要 平成7年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1997)『観光入込調査概要 平成8年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1998)『観光入込調査概要 平成9年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光物産課 (1999)『観光入込調査概要 平成10年』、千葉県。
 千葉県商工労働部観光コンベンション課 (2000)『観光入込調査概要 平成11年』、
 千葉県。
 千葉県商工労働部観光コンベンション課 (2001)『観光入込調査概要 平成12年』、
 千葉県。
 千葉県商工労働部観光コンベンション課 (2002)『観光入込調査概要 平成13年』、
 千葉県。
 千葉県商工労働部観光コンベンション課 (2003)『観光入込調査概要 平成14年』、
 千葉県。

千葉県観光の発展過程

千葉県商工労働部観光コンベンション課(2004)『観光入込調査概要 平成15年』、千葉県。

千葉県商工労働部観光課(2005)『観光入込調査概要 平成16年』、千葉県。

千葉県商工労働部観光課(2006)『観光入込調査概要 平成17年』、千葉県。